

石川町 No. 200 2019 6月定例会

議会だより

発行/石川町議会 編集/石川町議会広報編集特別委員会

1号

新町議会議員が誕生

町勢発展へ大きな期待

新議員の横顔

▲9月15日から一週間は老人福祉週間。一人ひとりが今後の高齢化社会を共に築きましょう。(8月15日・老人ホームで撮影)

1号

石川町議会議員選挙 二十名の議員が誕生

59 9/10 議会だより (60)

6月議会だより

▲9月15日から一週間は老人福祉週間。一人ひとりが今後の高齢化社会を共に築きましょう。(8月15日・老人ホームで撮影)

臨時会の状況

日程と内容

可決された議案

定例会と臨時会

50号

高齢化社会を考えましょう(老人ホームで撮影)

石川町議会だより 平成28年5月25日(第100号)

石川町議会だより

第100号
平成28年5月25日
発行/石川町議会 編集/石川町議会広報編集特別委員会

楽しく健康な毎日を送りましょう

平成28年4月から旧技術専門学校と石川町保健センター準庁舎が開設されました。地域保健対策の拠点としての役割を担う施設としてスタートを切ったもので、将来の保健センター敷地についても検討されています。当歳は、ここで各種の地域保健サービスが取り組まれていきますが、この石川町の事業である「生活支援センター」が関係され、利用者の方々の笑しそうな声が聞かれています。

平成28年 3月定例会

100号

楽しく健康な毎日を送りましょう

いしかわ 議会だより

No. 150
平成20年1月25日
発行/石川町議会 編集/石川町議会広報編集特別委員会

▶「夕焼け小焼け」歌碑建立記念式典 (平成19年12月14日)

2007 12月定例会

2 議員の費用弁償改正のほか13議案を可決

4 常任委員会審議 紙上中継 「建物解体工事の内容等」【安心して暮らせる石川町】

5 町政を問う 一般質問 7人が登壇

18 追跡調査 あの質問は? 「観光地有難脱の再調査」「行政分野、広域化の考えは」

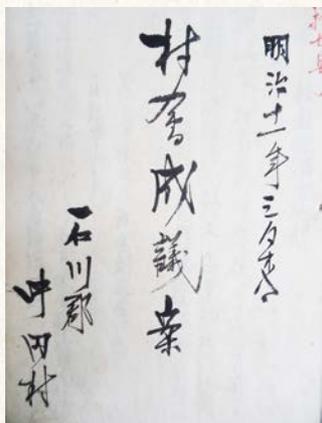
150号

「夕焼け小焼け」歌碑建立記念式典

石川町議会の始まり

議会制度が日本で関心を持たれるようになったのは、ペリー来航以後の欧米諸国に対して、どのように対抗していったら良いかということからであったと言われている。

明治政府は、五箇条の御誓文（廣く會議ヲ興シ萬機公論ニ決スベシなど）を発し近代化を進めた。河野広中は、明治7年に石川区長として着任し、石川区会所（現在の鈴木重謙屋敷）にこの誓文を掲げ執務した。翌年には、議会の始まりとも言え



▶中田村会成議案
明治11年、石川郡中田村議会の議事録が残されている。

る民会「有志會議」を設立し、各村で指導した。

明治10年の西南戦争が終結すると「武力から言論によって政治を」と議会の要求が高まった。同11年1月には板垣退助率いる「立志社」と呼応し「石陽社」が結成された。また、6月には全国で初めての福島県議会が開催された。

明治22年には大日本帝国憲法の制定、町村制が施行され、現石川町の基礎となる石川、野木沢、母畑、中谷、山橋、沢田の6村が誕生した。明治27年には、県内21番目となる石川町が誕生し、その後、昭和30年に1町5ヶ村が合併し、現在の石川町となった。



▶1000人議会
昭和30年1町5ヶ村が合併、初議会は85名出席によって行われた。



◀予算(決算)審査特別委員会

平成31年から、全議員による予算審議が行われるようになった。

歴代議長と庁舎の移り変わり

合併で石川町が誕生し、現下山田議長が第21代議長となり、役場庁舎は3代目となりました。



初代議長 有松 安一郎
昭和30年4月1日～昭和30年9月14日



第2代議長 大竹 謙蔵
昭和30年9月15日～昭和34年4月3日



第3、4代議長 矢内 善貞
昭和34年4月28日～昭和38年9月14日



第5代議長 鈴木 秀次
昭和38年9月16日～昭和42年4月18日



第6代議長 桑沢 辰治
昭和42年6月6日～昭和42年9月14日



第7、8代議長 永沼 幸吉
昭和42年9月16日～昭和50年6月24日



第9代議長 遠藤 照義
昭和50年6月24日～昭和50年9月14日



第10代議長 深谷 寿章
昭和50年9月17日～昭和54年9月14日



第11代議長 我妻 滋夫
昭和54年9月17日～昭和58年9月14日



第12、13代議長 二瓶 重隆
昭和58年9月16日～昭和63年10月28日



第14、15代議長 郷 泰隆
昭和63年10月28日～平成7年9月14日



第16代議長 我妻 滋夫
平成7年9月18日～平成11年9月14日



第17代議長 角田 美公
平成11年9月17日～平成15年9月14日



第18代議長 酒井 利治
平成15年9月17日～平成19年9月14日



第19、20代議長 大野 峯
平成19年9月19日～平成27年9月14日



◇石川町字南町14番地(現在の石川郵便局)
昭和30年合併時撮影



◇石川町字下泉153番地の2(現在まちなか駐車場)
昭和33年開庁



◇石川町字長久保185番地の4
平成28年開庁

石川町の歴史と議会の関わり

石川町議会だより 2000号記念に よせて



議長 下山田和雄

記念すべき2000号の発行を迎えた石川町議会だよりは、昭和46年10月発行の「館報いしかわ」に議会の当選者、議会構成等を掲載して以降、議会活動のみならず、多くの施策に取り組む町政とこれに対応する町議会の情報を伝え続け、町の活性化に大きな役割を果たしてきました。

少子高齢化や人口減少問題など多くの課題が山積しておりますが、今後も、この2000号を契機として、より開かれ、わかりやすく親しまれる議会となるための議会だよりを、町民の皆様との懸け橋として有効に活用できよう取り組んでまいります。



▲角田市と姉妹都市調印式(昭和53年)



▲大被害の台風6号(昭和36年)



▲母畑浄水場が完成(昭和45年)



▲千五沢ダム堰堤が完成(昭和47年)



▲誘致企業第一号(ミドリ安全靴石川工場)

昭和30年

1町5ヶ村が合併し石川町誕生
初議会は議員定数95名(百人議会と言われた)
議員定数を95名↓30名へ改める

昭和33年

役場庁舎完成

昭和34年

桜が丘学園が開園

昭和35年

米軍軍用機が山橋地区に墜落事故を起こす

昭和37年

ミドリ安全靴石川工場が落成
(誘致企業第一号)

昭和39年

東京オリンピック

昭和42年

議員定数を30名↓20名へ改める

昭和44年

アポロ11号月面着陸

昭和45年

新浄水場が完成

昭和46年

日本万国博覧会開催

昭和47年

沖繩返還

昭和49年

町民グラウンド完成

昭和50年

千五沢ダム堰堤完成

昭和51年

第11回冬季オリンピック札幌大会

昭和52年

国道118号石川バイパス開通

昭和53年

石川消防署庁舎完成、歴史民俗資料館完成

昭和54年

母畑レークサイドセンター完成

昭和55年

学法石川高校野球部、春の選抜甲子園初出場

昭和56年

統合石川中学校開校

昭和57年

宮城県角田市と姉妹都市調印

昭和58年

台風15号200ミリの記録的豪雨

昭和59年

雇用促進住宅完成

昭和60年

石川スケート場オープン



◀東日本大震災では被災者
約400名を受け入れ
(平成23年)



◀地域活動の拠点、
自治センターがスタート
(平成21年)



▶統合小学校がスタート
(平成27年)



▲新石川地方
ゴミ焼却施設が
完成(昭和60年)



◀旧石川小が公民館・
図書館・子ども遊び場・
放課後児童クラブに
(平成31年)

令和元年	平成31年	平成28年	平成27年	平成23年	平成21年	平成19年	平成17年	平成15年	平成14年	平成10年	平成7年	平成5年	平成2年	昭和62年	昭和60年						
天皇陛下の生前退位により元号が「令和」に	文教福祉複合施設モトガッコがオープン	役場庁舎完成	統廃合により新石川小学校・ 新石川中学校が開校 沢田中学校が閉校	藤沢工業用地が完成	東日本大震災(石川町震度5強)	地区公民館を廃止、 地区自治センターを開設	地区公民館を廃止、 地区自治センターを開設	議員定数を20名↓18名へ改める 保育所の再編、3保育所1児童館に移行	議員定数を20名↓18名へ改める	完全学校週5日制がスタート	屋内温水プールが完成しオープン	阪神大震災・地下鉄サリン事件	福島国体・ハンドボール大会を開催	石川町のペグマタイト鉱物が県の 天然記念物に指定	福島空港が開港	石川町総合体育館が完成	石川警察署の新庁舎が完成	西部工業団地完成	昭和天皇崩御、元号「平成」に	鳥内工業団地内企業が操業開始	新石川地方ゴミ焼却施設が完成

国民健康 保険税決まる

6月 定例会

令和元年度の国保税は、被保険者の負担軽減のため、前年度の決算剰余金4,850万円を充当し負担増加の緩和措置として、国民健康保険財政調整基金から1,500万円を繰り入れて算定しました。

その結果、平均すると1世帯当たりの保険税が2,368円増額され、率にして1.69%増の14万2,618円となりました。

◆医療分基礎課税額

医療機関にかかったときの医療費等の給付費用に充てるための財源として納めるもの。

区分	現行	改正案	比較	
所得割	6.88%	7.21%	0.33%	
均等割	18,510円	18,870円	360円	
平等割	一般世帯	15,570円	15,720円	150円
	特定世帯	7,785円	7,860円	75円
	特定継続世帯	11,677円	11,790円	113円

◆後期高齢者支援金課税額

75歳以上の医療保険である後期高齢者医療制度を支援するため、その医療費等の財源の一部として納めるもの。

区分	現行	改正案	比較	
所得割	2.39%	2.53%	0.14%	
均等割	6,450円	6,620円	170円	
平等割	一般世帯	5,420円	5,510円	90円
	特定世帯	2,710円	2,755円	45円
	特定継続世帯	4,065円	4,132円	67円

◆介護納付金課税額

介護保険制度の財源として、40歳以上65歳未満の加入者（介護保険第2号被保険者）が納めるもの。

区分	現行	改正案	比較
所得割	2.03%	2.14%	0.11%
均等割	6,900円	7,120円	220円
平等割	4,300円	4,390円	90円

※所得割：加入者の所得に応じて課税します。

※均等割：加入者1人につき、定額で課税します。

※平等割：加入者数に係わりなく、1世帯につき、定額で課税します。

6月定例会は6月6日から13日までの8日間の会期で開かれました。条例の制定及び一部改正、補正予算などの議案が提案され原案のとおり可決したほか、請願5件、議員発議6件を審議しました。また、一般質問には4人の議員が町政を問い、傍聴には23人が訪れました。

議案・請願・発議 審議結果

議案番号	議案・請願	審議結果	
議案 第32号	消費税及び地方消費税の税率引上げに伴う関係条例の整備に関する条例の制定について	原案可決	全 員
議案 第33号	石川町図書館協議会条例の制定について	原案可決	全 員
議案 第34号	石川町監査委員に関する条例の一部を改正する条例	原案可決	全 員
議案 第35号	石川町重度心身障害者医療費の給付に関する条例の一部を改正する条例	原案可決	全 員
議案 第36号	石川町国民健康保険条例の一部を改正する条例	原案可決	全 員
議案 第37号	石川町介護保険条例の一部を改正する条例	原案可決	全 員
議案 第38号	令和元年度（平成31年度）石川町一般会計補正予算（第1号）	原案可決	全 員
議案 第39号	石川町国民健康保険税条例の一部を改正する条例	原案可決	全 員
議案 第40号	消防ポンプ自動車購入契約の締結について	原案可決	全 員
議案 第41号	小型動力ポンプ（B3級）付積載車購入契約の締結について	原案可決	全 員
請願 第3号	「令和2年度及び復興・創生期間後も国の『被災児童生徒就学支援等事業』の継続と被災児童生徒の十分な就学支援を求める意見書」の提出を求める請願書	採 択	全 員
請願 第4号	脱原発社会の実現を求める請願	採 択	全 員
請願 第5号	消費税率10%への増税に反対する請願	不 採 択	賛成少数
請願 第6号	地方財政の充実・強化を求める意見書提出請願書	採 択	全 員
請願 第7号	オスプレイの撤去と飛行訓練の中止を求める請願	採 択	全 員

議案番号	発議	審議結果	
発議 第3号	石川町議会委員会条例の一部を改正する条例	原案可決	全 員
発議 第4号	新たな過疎対策法の制定に関する意見書	原案可決	全 員
発議 第5号	令和2年度及び復興・創生期間後も国の「被災児童生徒就学支援等事業」の継続と被災児童生徒の十分な就学支援を求める意見書	原案可決	全 員
発議 第6号	脱原発社会の実現を求める意見書	原案可決	全 員
発議 第7号	地方財政の充実・強化を求める意見書	原案可決	全 員
発議 第8号	オスプレイの撤去と飛行訓練の中止を求める意見書	原案可決	全 員



自治功労表彰

6月3日に開催された福島県町村議会議長会定期総会において、町村議会議員として19年以上在職の矢内義將議員と、11年以上在職の関根武一議員並びに渡辺実議員が表彰されました。長年の功績が認められ、6月定例会の初日に下山田議長より伝達表彰が行われ、同僚議員から祝福の拍手が送られました。

◎議案第32号
消費税及び地方消費税の税率引上げに伴う関係条例の整備に関する条例の制定について
消費税法等の一部が改正され、10月1日から消費税及び地方消費税の税率が引上げられることに伴い、公共施設使用料等についても改定されます。対象施設等については、次のとおりです。

- | | |
|-----------|---------------|
| ①自治センター | ⑪屋内ゲートボール場 |
| ②町立小中学校 | ⑫老人福祉センター |
| ③公民館 | ⑬小金塚污水处理施設 |
| ④文教福祉複合施設 | ⑭共同福祉施設 |
| ⑤町体育館 | ⑮勤労青少年ホーム |
| ⑥温水プール | ⑯母畑レークサイドセンター |
| ⑦町民グラウンド | ⑰総合運動公園 |
| ⑧武道館 | ⑱総合体育館 |
| ⑨鈴木家主屋 | ⑲水道料金 |
| ⑩川井地区集会場 | |

紙 上 中 継

常任委員会審査

総務産業建設常任委員会

廃校施設の利活用について

(旧中谷第一小学校)



〔A〕平成27年3月末で廃校となった小・中学校の取り扱いについては、「廃校施設の利活用に関する基本方針」により、利活用及び処分等の

対応を図ってきました。

旧中谷第一小学校については、町の行政文書保管庫として活用してきましたが、昨年、学校法人石川義塾森理事長より、男子寮として活用したいため、校舎やその土地を譲渡して頂きたいとの依頼がありました。

町は、同校が男子寮を運営することで、高等教育の振興や、廃校舎の活用、地域活性化に繋がるという考えのもと、中谷地区区長会、石川義

廃校施設の活用及び処分の状況

- ・旧石川小学校→文教福祉複合施設
- ・旧沢田中学校→沢田自治センター、沢田児童館
- ・旧山形小学校→石川義塾山形寮
- ・旧母畑小学校→解体
- ・旧中谷第二小学校→改修後、貸付けを予定
- ・旧南山形小学校→検討中

塾、町の三者による協議を行い、地域合意が得られたことから、校舎、屋内運動場については、現状有姿のまま無償で譲渡し、土地については、無償で貸し付ける決定をしました。

文教厚生常任委員会

プレミアム付商品券の内容について

〔A〕今年10月に消費税等が10%に引上げられることにより、住民税非課税者・子育て世帯を対象に消

費に与える影響を緩和し、地域経済を支えることを目的に、プレミアム付商品券が販売されます。

あなたは対象者？
確認したら申請にゃん！

対象者等

①令和元年度住民税非課税の方
限度額25,000円(販売額20,000円)

②平成28年4月2日～令和元年9月30日
まで生まれの子の属する世帯主
限度額25,000円(販売額20,000円)×世帯内の対象の子の数
※販売単位は、商品券額面5,000円(販売額4,000円)

使用場所・期限

町内の店舗を幅広く使用できるようにし、令和2年3月までの使用期限となる予定です。

Q 道の駅の目的は何か？

A 地域の活力をつくる事です！



根本 重泰 議員

石川の顔づくり、
情報発信の仕組み
づくりを真剣に
考えているの？

質問 道の駅の必要性は。

答弁 本町が抱える課題を解決する場。重要な施設と考え整備を進めていく。何もやらなければ何もできません。道の駅をつくることによって地域が活性化し、よみがえります。

質問 「赤字の箱もの行政は必要ない」という意見もあるが？

答弁 ある程度の負担

は伴っても、採算ベースがあるような道の駅をつくっていききたい。

質問 町長が考える石川町らしい道の駅とは。

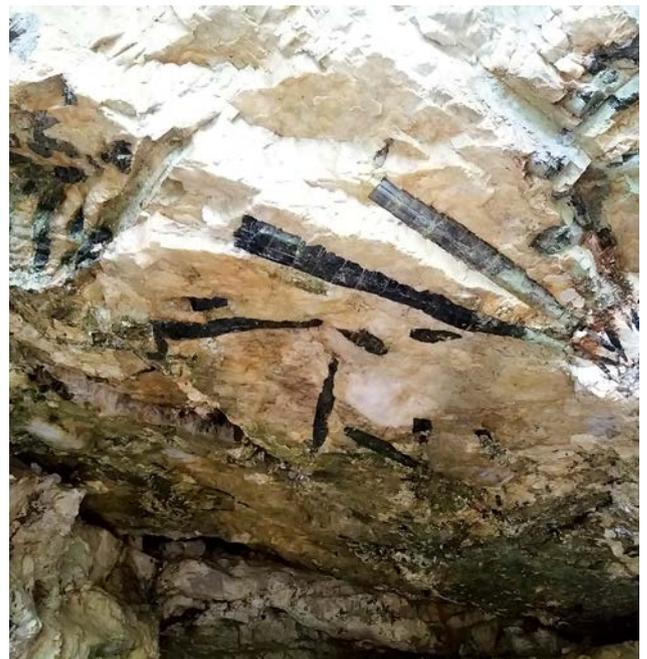
答弁 本町の地域資源を有効に発信できる施設、大人から子供まで楽しく体験できる環境を整備し、また防災拠点にもしていきたい。

質問 完成までの工程は。

答弁 6月に整備検討委員会設置、今年度中に道の駅基本構想、基本計画の策定。その計画の中で開業までのスケジュールを示す。

石川町の顔となる道の駅としたい。

意見 行政・民間の得意分野を最大限に引き出した、石川町民のためになる、運営組織をつくってほしい。



▲坑道の天井に見える、巨大な電気石。実物をぜひご覧ください。

質問 和久観音山鉱山跡を国指定文化財にする熱意は？

目指すところがはっきりしなければ前へ進まないのでは？

答弁 国指定文化財を目指し環境整備を進めていきたい。まず県指定を目指し、県教育委員会へ推薦書を申請しています。6月下旬、県の調査が来るので町の考え、方針、熱意を伝えていきたい。

質問 県指定を目指す上での課題は

答弁 広く公開するため、①坑道内の安全対策②導線の確保③駐車場完備の予算化をし、県指定を目指していきたい。

現在、県指定推薦書を申請中ですので、本腰を入れて一步一步対応して参ります。

Q 児童生徒通学路の安全確保の考えは

A 学校と地域の連携で、安全安心を守る



渡辺 実 議員

質問 町内で、6月8日に発生した児童生徒への「声かけ事件」を伺う。

答弁 5年生の女子児童が登校中に、男性に手首をつかまれたが、振り払って逃げたという事件が発生しました。

質問 怪我がなく、本当に良かったですが、昨年、実施した安全点検での危険箇所数は。

答弁 年1回、合同点検を実施し、統合後はスクールバスの停留所を含め実施。又、家庭



▲保護者送迎と安全対策の状況

訪問時に、通学路の点検も行っています。小学校で25ヶ所の合同点検を行います。

質問 合同点検は、保護者や警察、地域住民、自治体などで行い、対策も検討すべきと思うが。

答弁 子どもの安全安心は、学校だけではできず、地域の見守りや地域と連携を取りながら安全確保、予防に努

めます。

質問 石川小学校と石川中学校で保護者による送迎者数と安全対策は。

答弁 石川小学校210名、石川中学校110名。時間帯による車両進入禁止、ゾーン30エリアの設定。学校及び交通教育専門員による立哨指導を行っています。

質問 井戸改修への補助金上限アップを。

答弁 検討します。

質問 井戸水不足に、改修や掘削補助の上限アップの考えは。

答弁 検討します。

質問 道路整備計画策定の考えは。

答弁 現状では困難です。検討します。

質問 今年度の道路整

備事業の数と事業費は。
答弁 10路線で、約1億2千万円です。

質問 路線決定の考えは。

答弁 生活道路であり、幹線道路を優先し、交通量、地域の均衡などを総合的に判断しています。

質問 町長対話の日に道路整備の要望は。

答弁 出ています。

質問 要望は行政区長からが原則で、対話の日も受付となると、混乱が生じないか。再度、道路整備計画策定の考えは。

答弁 現状では困難です。なお、検討します。

質問 農道林道整備には機構改革が必要、考えは。

答弁 来年度、実施します。

Q 働き方改革、町職員、どう改善される

A 職員採用で必要な職員数の確保に努める



中村孝太郎 議員

質問 働き方改革は、長時間労働の是正、多様で柔軟な働き方の実現、雇用形態の公正な待遇の確保とあります。地方公務員の現状は行政コストの削減にこそあると考えます。

答弁 職員の労働環境が改善されているのか伺います。

答弁 長時間労働の是正が働き方改革の目的とされていることから事務量の適正化を図るとともに、職員採用により必要な職員数の確保に努めます。

質問 保育所の正職員が休みも取れない状況

をどう改善するのか。また、学校の先生も忙しく、実態を伺います。

答弁 保育所職員も年休は取得されており、休日出勤の振りかえも取れるように努めています。

学校についても学校行事やPTA行事を減らしてきており、授業が無いときは年休をとっていた聞いています。

質問 最近、老朽町営住宅の取り壊しが目立ち、必要とする人たちに応えられるか気になります。

答弁 旧雇用促進住宅の見直しに伴い子育て世帯、高齢者、低所得者の住宅政策を伺います。

答弁 旧雇用促進住宅の活用を断念し、跡地利用に若者、高齢者、低所得者向けの町営住宅の建設などを考えています。



▲老朽町営住宅

質問 地方自治体の役割や存在意義は、そこに住み生活している人たちが安心して快適に暮らせる行政サービスを提供することにあると思います。町の考え方を伺います。

答弁 住民福祉の増進を図ることを基本として、地域行政を自主的総合的に広く担うのが役割であり、住民に関わる公の事務を公平公正に司るものです。

質問 石川町の縄文・弥生、石川氏、自由民権、鉱物資源など、郷土史や自然の貴重な資源を保存し、継承して

いくことは大切なことです。一研究者から寄贈を受けた研究資料が七一五箱も届いている。その整理が地方自治体の仕事なのか、町民にどう活用されるのか伺います。

答弁 本町に直接関連しなくても資料的価値が高いと判断した場合のみ、寄贈・寄託を受けており、町が責任をもつて管理します。

質問 多くの町民は資料のことは知りませんが大変貴重な資料なら研究所や大学の資料室などでも欲しいが、町では一度断っているはずですが、その理由を伺います。

答弁 断った理由については分かりませんが、歴史的文献ということでは預かったようですが、今後はよく検討して預かるようにします。

Q 介護職資格取得受講料を補助できないか

A 今年度から初任者研修修了者に補助します



▲旧雇用促進住宅



瀬谷 京子 議員

質問 アスベストが出た旧雇用促進住宅石川宿舎改修変更を伺う。
答弁 改修による活用を断念し、雇用支援機構が来年度中に取り壊します。町は更地での不動産鑑定評価額の範囲内で取り壊し費用を負担します。

質問 町側でも不動産鑑定をするのか。

答弁 機構側選定の二社が実施しており、結果の平均値で金額が提示されます。

質問 想定される金額は。

答弁 平成29年取得時の評価額約7千万円程度から、取得費約203万円を引いた金額と推測します。

質問 更地の利用は。

答弁 当初、子育て、若者向け住宅、低所得者向け住宅の目的で購入したので、住宅を建てたいと思います。

Q これまでの質問(一部)その後どうなった

質問 鉱物館整備に向け学芸員の正規採用は。

答弁 鉱物館整備検討委員会10名で基本構想を策定中です。建設計画が具体化した後に、正規職員の学芸員採用

を要望します。

意見 本町は鉱物の聖地と言われ評価が高い。早く採用して構想の段階から参画を要望する。

質問 古館・谷津団地未売地購入者への支援策は。

答弁 両団地で5区画が未売地です。分譲販売から15年以上経過し近年の地価公示価格に比べ割高な価格設定であると考えられ、土地の鑑定評価を依頼したい。また、今出川改修事業の移転代替地として確保する必要もあると考えます。

質問 公共施設への案内板がなく不親切だが。

答弁 今年度はまちなか駐車場や役場への案内板を設置するほか、クリスタルパーク入口看板の改修も予定しています。

意見 外から来る人にとっては標識や案内板看板が頼り。施設設置と同時に設置するのが良いと思う。

質問 地域おこし協力隊の導入は。

答弁 関係経費の試算や活動分野の検討をしてきましたが、引き続き隊員に求める資質や技能等を明確にすべく、各課との調整を行い、導入に向けた検討を進めたいと思います。

質問 将来の介護職不足対策として昨年提案した初任者研修受講補助金を制定していただいた。手続きは。

答弁 受講後、3カ月以上介護の職場で仕事をし、研修終了後1年以内に申請すると、5万円を上限にかかった費用の約二分の一を補助します。

あれからどうなった？

一般質問のその後は

平成30年6月
定例会より

ることは難しいとの結論に至り、熟慮の末に旧宿舍の利活用は断念し、取り壊しという苦渋の選択をしました。

◆ 今後は、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構との間で締結した協定書に基づき、令和2年度末を目途に支援

機構が取り壊し工事をを行いますので、町は更地となる旧宿舍跡地の効果的な土地利用について検討を進めていきます。

旧雇用促進住宅 石川宿舍の取り扱いについて

●アスベストを囲い込みと封じ込め対策により安全を確保する
るといふことであつたが、その後は。



●町では、旧雇用促進住宅石川宿舍の安全性を確保するため、当初計画したアスベストの「囲い込み」「封じ込め」による改修工事を見直し、アスベストの「除去」による改修工事を進める方向で検討しましたが、多額の財政負担に加え、入居者となる若者や子育て世代の理解を得

町立図書館の開館と 管理運営について

●町立図書館は31年4月に開館するといふことであつたが、その後は。

●平成31年4月21日に石川町立図書館が開館しました。運営については、図書館司書の配置など一部業務を民間に委託し運営しています。開館時間は平日が午前10時から午後6時ま

で、水曜日は仕事帰りの人も図書館を利用できるよう午後7時まで開館しており、土・日・祝日については、午前9時から午後5時まで開館しています。（毎週火曜日は休館）

また、図書館は、司書によるレファレンスサービスのほか、読み聞かせ会など各種図書館事業を実施しています。

※レファレンスサービスとは、利用者の調べものをお手伝いするサービスです。

7項目の要望書を町長へ提出!

マンドタクシーの再実証実験を行います。

水郡線については、水郡線活性化対策協議会を通じた利用促進事業を実施し、鉄道利用の向上を図ります。

運転免許証返納については、県が始めた運転卒業サポートを推進します。

4. 消防組織の充実強化について

消防団員の日中の出動力低下が懸念されるとともに、新入団員の確保も困難な状況にある。あらゆる災害から町民の生命、財産を守るため、自治会消防等の支援組織へ対応策を検討すること。

回答
(抜粋)

福島県の「消防団協力事業所」表示制度を活用し、事業所の協力に対する社会貢献を称え、かつ団員の活動環境整備に努めます。

また、持続可能な消防組織の構築を目指すため、時代に合った消防団組織機構の見直しや拠点集約、施設設備の再編設置についても検討してまいります。

5. 体育施設の整備について

本町は、県内屈指のスポーツの町であるが、公認の体育施設が整備されてない。町民のスポーツの振興と交流人口の増加、更なるスポーツの町を推進するため、陸上、野球、サッカーのいずれか一つ、公認の取れる施設を整備すること。

回答
(抜粋)

新たに公認のとれる体育施設の整備は難しい状況にあります。現状としては、各種大会で利用されている石川町総合体育館の活用を図りながら、スポーツの振興と交流人口の増加に努めてまいります。

6. 病院誘致に係る情報提供について

病院検討委員会が設置され、本格的に病院誘致の議論が開始される。町民にとっても非常に関心の高い問題であることから、議論の経過や委員会の内容について情報提供を講じること。

回答
(抜粋)

病院等の誘致につきましては、議員全員協議会を通して情報を示し、ご意見とご指導を頂いてまいりました。今後も適宜、議会に報告するとともに、町民に対しましては、広報紙等を通して周知してまいります。

7. 福島県立石川高等学校の存続について

県立石川高校は、本町の賑わいと活気に大きく貢献しているが、ここ数年定数に満たない状況が続いている。更なる危機感を町としても持ち、県立石川高校が存続できるよう支援の充実に努めること。

回答
(抜粋)

平成29年設置の県立石川高等学校振興連絡協議会では、郡内関係者が一丸となり、教育環境の充実と魅力ある学校づくり、活動の充実対策を行っています。

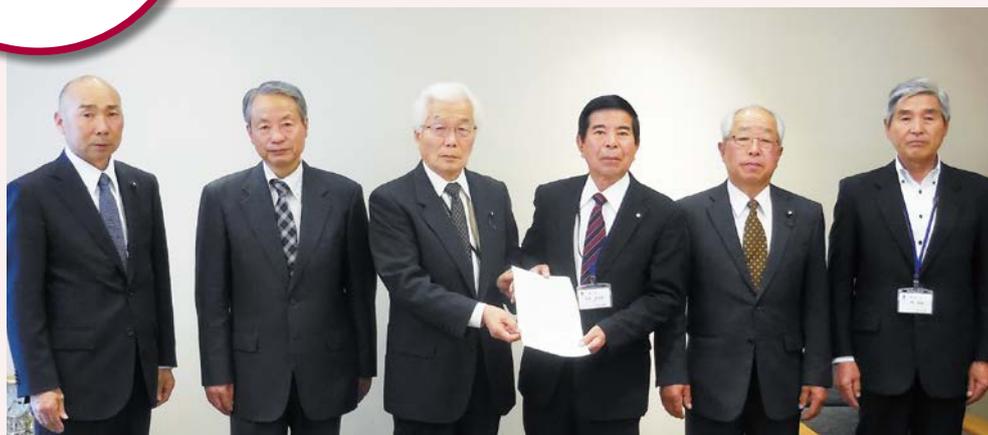
また、生徒が企業体験実習をする石川ワーク・アンド・ライフ教育や、まちなかの賑わい創出を目指した活動も実施しており、今後も、町や地域ぐるみで生徒の学びを支援し、県に対しての存続要請にも取り組みます。



5月14日、姉妹都市である宮城県角田市の議会議員との親善交歓会が行われました。
今年で29回目となる親善交歓会は、母畑レックサイドセンターを会場にグラウンドゴルフで親睦を深めました。

姉妹都市
角田市親善交歓会

報告します
議会の
活動



5月13日、今後の町政に反映されるよう石川町議会として町長へ要望書を提出しましたので報告します。

また、5月31日に回答がありましたので、抜粋内容を掲載します。

1. 農業の振興について

近い将来、多くの方が引退する。地域農業の維持と生産性向上を図るため、中心的担い手である認定農業者等の育成及び設備投資等への支援、経営所得の確保や特産品の開発を進めること。

**回答
(抜粋)**

認定農業者等の育成や設備投資等の支援は、農地集積による経営規模の拡大、大型機械による省力化、低コスト化など生産性の向上に努めるほか、中山間地域等直接支払交付金制度、多面的機能支払交付金制度を活用し、持続可能な農業を推進します。

また、主要作物である米、りんご、いしかわ牛の振興、ブロッコリー、インゲンの栽培推進や特産品のブランド化、施設野菜の高収益化を図り、農家所得の向上に努めます。

2. 観光の振興について

本町の観光資源である「桜」「温泉」「鉱物」等を活かした地域ブランドの開発、グリーンツーリズムや体験型観光の推進、効果的な情報発信を行

うこと。

**回答
(抜粋)**

観光は、行政だけではなく、宿泊・飲食・農業・商工業等の様々な連携・協力により推進し、本町の観光資源の柱である桜や温泉等の魅力向上と活用の推進、新たな観光資源の創出に努め、自然や地域の特性を生かしたイベント、体験型観光を支援してまいります。また、SNSなど時勢に即応した情報発信ツールを積極的に活用し、インバウンドや新たな観光ニーズへの対応にも取り組みます。

3. 地域公共交通の整備について

デマンド交通システムやまちなか循環バスの実証実験の検証結果を基に、効果的な循環バスの運行、自宅送迎デマンド交通システムの構築、水郡線の活性化、運転免許証返納対策等、持続可能な地域公共交通手段の整備を進めること。

**回答
(抜粋)**

実証実験の検証結果を基に、まちなか循環バスのエリア見直し、路線バスを活用したゾーンバスシステムの実証実験、予約型デ



読まれる・伝わる
広報紙づくり学ぶ

5月22日、町村議会広報研修会がビッグパレットふくしまにおいて開催されました。

石川町議会から広報編集委員4名が参加し、広報コンサルタント・議会広報サポーターの吉野政明氏より広報紙づくりの技術を学びました。

未来に向かつて

・高校生の声

県立石川高校 3年 高原 大輝

私の今と、将来に向けて



高原大輝さん

私が今頑張っていることは、部活動と勉強の両立です。私は野球部に所属しています。野球部の部長としてチームをまとめたり、主将のフォローをしたりと大変ですが、とても充実した日々を過ごしています。辛いこともたくさんありますが、仲間と助け合いながら毎日頑張っています。私の将来の夢は、地



▲部活動の練習に励む様子

元である石川町を盛り上げられるような仕事に就くことです。そのためにも、大学へ進学して、知識を広げ、将来は地元に戻り、地域の発展に尽くしたいと考えています。その夢に向かって、今、志望校合格を目指して勉強

に励んでいます。私の住む石川町は、自然が豊かで、周りの人々も温かく、とても住みやすい町です。しかし、今ほどの地域でも少子高齢化が進んでおり、石川町も例外ではありません。それらを解決するために、子育て支援や高齢者へのサービスなど、町で実施していることも数多くあると思います。先にも述べたように、今後の地元の発展に貢献できるよう、部活動と勉強の両立に力を入れながら、進学を目指し悔いが残らないよう頑張っていきたいと思います。

編集後記

今回の議会だよりは、「200号記念、令和時代に入って最初、現編集委員会最後」のトリプル記念号となりました。200号に至る第1号は、昭和46年10月発行で、これまでに48年の歳月を要しました。また、今年5月からは令和元年となり、人口

減少が加速する厳しい時代に突入しましたが、子どもたちの夢や希望を叶える社会づくりをしなければなりません。私たち6人の編集委員会としても最後の作業となり、これまで目指してきた町民目線の議会広報は達成できたのか、皆様の評価を待ちたいと思います。

瀬谷 寿一

議会を
傍聴しませんか
9月定例会「一般質問」
は9月30日(月)
の予定です。

議会広報編集 特別委員会

- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 根本 重泰 |
| 副委員長 | 瀬谷 寿一 |
| 委員 | 近内 雅洋 |
| 委員 | 小木 芳郎 |
| 委員 | 増子美知夫 |
| 委員 | 山田 英重 |